公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	東京都北区立児童発達支援センター		
○保護者評価実施期間	令和　６年　９月　９日　～　令和　６年　１１月　８日		
○保護者評価有効回答数	（対象者数）　53	（回答者数）　21	
○従業者評価実施期間	令和　６年　９月　９日　～　令和　６年　１１月　８日		
○従業者評価有効回答数	（対象者数）　10	（回答者数）　10	
○事業者向け自己評価表作成日	令和　６年　１２月　１６日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種の職員が支援にあたっており、互いに連携することで支援内容の充実が図れる。	個別専門療育（OT・ST・PT）の空き時間があれば、講師にクラス療育に入ってもらっている。 クラス担任が1日の個別専門療育終了後にフィードバックを受け、クラス療育に生かしている。 心理や相談支援専門員とも連携を取っている。	各職種との連携をスムーズにするシステムづくり。
2	地域障害児支援体制中核拠点として登録している。	中核機能強化のため、地域と連携した療育となるよう検討し、以下のような取り組みを実施している。 ＊幼稚園等との併用利用を可能にし、徐々に移行を進める。 ＊状況に応じて、訪問という形で幼稚園の通園に同行して支援する。 ＊幼稚園等の先生向けや、保護者向け講演会等のイベントを開催。 ＊他事業所や幼稚園と交流の機会を作る。　など	各取り組みやイベントでいただいたご意見・アンケート結果等を活かし、今後の取り組みに反映させる。 実務者会議やスーパーバイズコンサルテーションの企画への療育職員の参加を増やす。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	各種お知らせの配布などが遅れてしまうことがあり、周知状況にばらつきがある。	個別専門療育のみご利用の場合、通所が月１回または２回となっているため、急な欠席などがあった場合配布が遅れてしまう。	欠席の連絡を受けた際などに、お渡しできない配布物の内容を説明しておく。 また、ホームページやメール配信でのお知らせも合わせて検討していく。
2	兄弟支援が少ない。	スペースや人的要因から、療育中や個別面談時に兄弟の保育を行うことが難しい。 直接的な兄弟支援のイベントがない。	個別面談や専門療育時の柔軟な受け入れ方法の検討。 保護者支援の企画等が兄弟支援につながるよう、実施方法や内容を検討する。
3	地域との交流が少ない。	感染症の影響と、児童発達支援センター化した際の移転により、交流していた地域の保育園等との関係が途絶えてしまった。	幼稚園や他事業所との交流を始めており、今後内容を充実させていく。 お祭り等の地域参加イベントの検討。

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	東京都北区立児童発達支援センター

公表日 令和 6年 12月 25日

利用児童数 令和 6年 9月 1日 53名 回収数 21名

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	19	2			・廊下奥みかん②のトイレが狭く、大人も介助に入ると腰をかがめるのも大変な時がある。 ・室内も十分広くて動きやすい。 ・教室を半分に仕切った時に、少し狭いなという印象を受けました。 ・部屋、ホール、OT室、廊下など分散させて色々な活動に取り組めるのが良い。	・奥のトイレが狭く不便をお感じのことと思います。保護者ご一緒の際には手前の広いトイレのご使用も可能です。お声がけください。 ・限られたスペースを広く、また安全に使えるよう、工夫し、ホール、エントランス等フリースペースも有効に活用していきます。 ・室内の仕切りは、用途に応じて利用していきます。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	19	1		1	・クラスメンバーが入れ替わる４月５月辺りは子どもも慣れていないことがあり、一人ひとりをフォローするには人員が足りないのでは？と思うことがある。 ・今は3人～４人に先生二名なので、最大８人を体験していないため。	・一人ひとりの子どもの発達状況や家庭のニーズに合わせた支援を充実して行えるように、研修や職員同士の情報交換などを通して専門性の向上を図ります。 ・職員体制については各活動時間帯毎に確認を行い、柔軟な応援体制を組み対応していきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	19			2	・貴園しか利用していないため分からないが、自分たちにとっては分かりやすく適切です。	視覚的な支援を取り入れ、生活、活動内容に合わせて限られた空間を工夫して使用しています。必要に応じた個別対応や、より安全で分かりやすい環境設定ができるよう心がけていきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	20			1	・子ども用のトイレを毎回使用していますが、必ず清掃が行き届いていると感じます。	引き続きこまめに清掃し，換気や消毒等の感染防止対策を図っていきます。 また、活動内容に合わせて適切な環境を準備するように心がけていきます。
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	19			2	・月に1回、OTのみと参加回数が限られていますが、OTの先生が日頃の成長や気にかかることについて自然にヒアリングをしていただき、日常の生活改善に役立っています。	一人ひとりの子どもの発達状況や家庭のニーズに合わせた支援を充実して行えるように、職員間で情報共有していきます。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか 。	16	1		4	・どこで公表されているかパッと思い浮かばず。	保護者の方には支援内容をしおり・クラスだより等でお知らせしていますが、外部の方向けに支援プログラムを今年度中にホームページ上で公表いたします。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	21				・今年度に入ってからは支援員の方と双方向のコミュニケーションがよく取れており、その内容が支援計画に表れている。家庭側の希望についての細かなニュアンスも汲み取ってくれていると感じている。	今後も、子ども一人ひとりの課題に沿った支援計画となるよう、定期的な見直しを行います。ご家庭のご意見をしっかり反映させていくため、保護者の方のご都合・お時間に合わせて面談・電話・書面など柔軟に対応していきます。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援 」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	19			1	・何が適切かわからない。	支援計画については複数の職員で検討を行い、一人ひとりのお子さんに合わせた内容で、具体的かつ効果的な内容となるよう作成しています。必要な見直しは適宜行っていきます。支援内容についてはご理解いただけるよう説明を尽くします。

	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	20				・活動は月1回と限られているため、その補足のため、講演や課外活動のうち、発達段階に合う可能性の高いものをご紹介いただくことができている。	個別支援計画書の課題を定期的に確認して、職員間で共通意識を持って支援が行えるよう努めます。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	18	1		2	・子どもの特性上、注目が移ろいやすいので固定化しようがないと思われる。逆に、そのときの興味に応じて、柔軟に対応いただいている。	計画書の定期的な見直しの機会だけでなく、保護者の感想や要望を伺う機会を設けて、本人の課題と保護者のニーズに合った支援と丁寧な説明を行います。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	9	2	5	5	・知る限り経験していない。 ・週5日、子ども園に登園しており、常時ほかの子どもと活動の場を同じくしている。	・公立幼稚園の園庭を利用させていただいたり、公園などで近隣園のお子さんと遊具で遊ぶ順番を譲り合うなどの交流の場面があります。また、幼稚園や児童館、他の事業所との交流の機会を設けています。 ・周知のための活動報告をわかりやすくしていきます。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	20	1			・講演や課外活動などの支援プログラムを随時、ご説明いただいているが、仮に年間で計画が決まっているようであれば、まとめて早い段階でご紹介いただきたい。	・クラス療育の大まかな行事については、しおりに掲載しております。 ・年度当初に決定している予定は年間行事予定でお知らせしていますが、日程が未定のものは決まり次第お知らせします。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	21					個別支援計画書の変更時には面談を実施して丁寧な説明を行います。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	20	1			・ペアレントトレーニングの機会を提供いただいているのは、非常にありがたいと感じている。	現在、４歳児から小学4年生を対象にしたペアレントトレーニング（全８回プログラム）を年間１回開催しています。その他の家族支援として、各種親の会や講演会等も実施しています。より多くの保護者に参加してもらえるよう周知の仕方を工夫していきます。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	19	1		1	・OTの方だけでなく、職員の方も部屋の外での活動や振舞いをよく見ていただき、理解していただいている。 ・日頃のやり取りに加え、2か月に1回、園での様子を個別のメッセージで頂けるのがとても参考になっています。	お子さんの日々の様子や発達の状況、課題など、連絡ノートや電話等で密に伝え合い、共通理解が持てるよう努めています。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	18	1				・クラス療育では、年間2回個別面談を実施しています。個別専門療育では、年間2回個別支援計画作成の際に個別に保護者の話しを聞く機会を設けています。その他にも随時、面談や電話での相談を行っています。 ・面談前の時期には、職員間で面談の手順や聴き取りのポイントを確認し共有することで、より丁寧な説明ができるよう心がけていきます。
保護	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	19				・非常に思っています。我が子のペースで一歩一歩の積み重ねを大切のして頂いています。	

者への説明等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	10	5	2	4	・保護者同士の交流の機会は増えたと思います。兄弟への支援はない様に思います。各家庭によって兄弟間の支援が必要な場合とそうではない場合とあると思うので、ケースバイケースの対応で良いと思います。 ・保護者についてはされている。きょうだいについてはわからない。 ・上の子の話をしたり聞いて頂けたり、お試しへの案内をしてくださったりありがたいです。 ・ムーブメントはありますが、あまり他の方と話す機会が少ないのかなぁとは思います。 ・きょうだい向けのイベントの開催や交流の機会が設けられていることを知りません。 ・保護者同士の交流の機会あり。とても助かっています。	・みかん組は年間３回、いちご組は年間２回保護者同士の集いの場を設けています。 ・幼稚園先輩ママにお話を聞く会も開催しました。 ・兄弟については、法外利用での小グループに参加いただきました。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	19			2	・発達検査は定期的に実施して頂いています。 ・上の子の受給者証取得へのご協力ありがとうございます。	クラス担任、心理、個別専門療育講師が連携して、保護者の相談に対応しています。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	21				・面談を要するときは事前に伝えていただき、十分な時間をとっていただいています。また、その間は子どもを別室で見ていただくなど、配慮していただけています。 ・連絡帳だけでなく、必要に応じて直接お電話頂くなど、配慮頂いてると感じています。	連絡帳、送り迎えの際に伝えきれない場合は電話などで丁寧に説明を行っています。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	15	1	2	4	・事業者そのものの発信内容については知りません。　・「みかんだより」の表面で、毎月写真とコメントで活動報告頂けるのがとても分かりやすく安心です。 ・HPやSNSで発信がなされているのか知りません。	・事業の年間計画は令和７年度予定表を掲載していく予定です。 （区内全体の講演会やペアトレなど） ・ホームページでは自己評価の結果を公表しています。今後、支援プログラムの内容も公表予定です。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	18			2		今後も個人情報の取り扱いには充分な配慮を行っていきます。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	16		1	3	・これらのマニュアルについて説明があったかもしれませんが、存じ上げません。申し訳ありません。 ・訓練、放送が入らなかったのは残念でした。 ・月1の参加なのでよくわかりません。近年は地震がよく発生しているので、避難についてやや心配です。	・契約の際に保護者説明を行っていますが、毎年年度初めに書面にて、必要事項をお知らせいたします。 ・全職員が避難経路やヘルメットの保管場所等を把握して、避難訓練に参加できない親子に対しても適格な指示が出せるようにしていきます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	16			4	・月1の参加なのでよくわかりません。近年は地震がよく発生しているので、避難についてやや心配です。	ご利用の日と重ならない場合もありますが、年に数回の避難訓練の他、防犯訓練やAED訓練なども実施しております。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか 。	17			4	・月1の参加なのでよくわかりません。近年は地震がよく発生しているので、避難についてやや心配です。	集団療育では、クラスのお知らせにてお知らせしております。個別専門の方へは実施日をお知らせいたします。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	18	1		2		クラス集団療育の保護者には、お子さんが怪我をした際は電話でご連絡させていただき、その後の対応などご相談させていただいております.
	27	こどもは安心感をもって通所していますか 。	21					

満足度	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	19	2			・担任の先生が送迎に付いて下さった時は通所に前向きですが、担任の先生以外の時は通所を拒む時があります。 ・毎回、ノリノリで自転車から降りて、事業所に通ってくれています。	お子さんにとっても、保護者の方にとっても居心地の良い場所となるよう職員一同努めて参ります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	20					

公表	事業所における自己評価結果

事業所名	東京都北区立児童発達支援センター

公表日　令和　6年　12月　25日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・少人数で場を分ける、廊下や空いているときのOT室を遊び・運動に利用する、ホールを時間で区切って順番に利用する等の工夫をしている。 ・廊下は利用人数に対して幅が広めであるため、接触等は少ない。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・基準以上の職員配置で療育にあたっているが、片付けや食事の支度、個別の関わりが必要な場面等、状況に応じて担任以外の職員（事務所職員も含む）も協力して支援を行っている。	・子どもの特性やその時々の状況で、担任だけでの対応が難しい場面もあるため、応援体制などは柔軟に対応していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・生活スペース、活動スペースが同じだが、目の前のことに集中できるよう周りの装飾を少なくしたり、一人ひとりのマークを目印に使うなど、子どもにわかりやすい工夫をしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・活動で使用した道具や汚れ物等、一時的に子どもが入れないところに置き、子どもの生活場所が清潔で危険のないよう整えている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか 。	○		・場所は限られるが、個別専門療育の部屋や医務室が空いている場合、クールダウン等での利用が可能。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○			各業務について、常に改善の余地があると意識していくことで、業務改善へとつなげていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・保護者アンケートや個別面談等の機会を設けている。また年度末に療育内容の見直しや改善に向けた話し合いが持たれている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・毎朝、夕に職員打ち合わせがあり、意見集約や情報共有のできる場となっている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		令和４年度に実施、次回令和７年度を予定している。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		他施設見学や職員向け研修を実施したり、外部の研修にも参加しやすいよう応援体制を組むなど、工夫している。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか 。	○		・保護者には、毎月のクラスだよりを通じて伝えている。	全体の支援プログラムの公表は、年度内にホームページ上で行うよう予定している。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		・個別面談や日々の活動の中で、こどもや保護者のニーズを把握し、個別支援計画に反映している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・児童発達支援管理責任者と担任・担当職員とで、確認をしている。	・専門的支援実施計画書のOT・STの欄は、全利用者の打ち合わせに参加してもらうことが時間的に難しいため、書面で意見をもらっている。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・支援計画はクラス職員間で共有し、日々の変化等も毎日全体で確認している。	

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・聞き取り表、OT、ST、心理の検査ツール等など使用している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		今年度後半から新制度に対応した書式に変更し、必要な項目を設定している。	保護者から見てより分かりやすい支援計画となるよう、今後も必要に応じて書式の見直しを行っていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・各クラス職員がチームを組んで日々のプログラム、週案を立てている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・同じ活動でも小さな変化やステップアップを意識している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		・クラス療育の部分で集団療育を、専門的支援実施計画で個別療育を、それぞれ個別支援計画書に設定している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・毎朝の打ち合わせで各クラスの予定を確認し、応援体制などもその場で組んでいる。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	○		・毎夕に短時間でも支援内容や利用児の報告などを行い、気付いた点など話すようにしている。	・会議や行事等で困難な日は、全体周知が必須なことのみにするなど、簡素化して行っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		全体の療育日誌・保健日誌の他、個別のケース記録やヒヤリハットに記載している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・個別支援計画の作成時期に合わせて定期的に個別面談を行う他、必要に応じて適宜保護者から話を伺うなどモニタリングを行っている。	
関係機関や保護者との連	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		情報交換を行う際は、担任・担当職員や児童発達支援管理責任者が対応している。	・当センターの相談支援専門員や他の相談支援事業所も含め、会議形式で行われることが少ないため、電話や書面で対応している。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・各種関係機関と、共通する児童についての情報共有や、制度面での情報交換会などの連携を行っている。	・児童個人の情報交換等については、必ず保護者の意向を確認して行っている。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・幼稚園・保育園等への移行に向けて、訪問や情報交換などの連携を行っている。 ・今年度から幼稚園・保育園等との併用利用を試行的に行い、次年度に本格実施が予定されている。	・児童個人の情報交換等については、必ず保護者の意向を確認して行っている。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		年度末又は年度初めに、特別支援学校との情報交換を行っている。	
	28	（28～30は、センターのみ回答） 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○		・幼稚園・保育園の職員向けの講演会や見学・体験研修などを実施している。 ・事業者向けに、実務者会議やスーパーバイズコンサルテーションでの講演会などを実施している。	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○		・児童発達支援センターや療育について、外部有識者を招いて検討会を行った。 ・他施設の見学を含めた各種研修に、職員が積極的に参加している。	

連携	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○			・出席者が管理者や係長・主査・児童発達支援管理責任者に偏ってしまっている。療育の状況に応じて、職員の出席も検討していく。
	31	（31は、事業所のみ回答） 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか 。	／	／	／	／
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		・毎年、近隣にある事業所との交流を行っている。また今年度からは、幼稚園との交流も始めている。	・まだ実績としては少ないため、今後機会を増やしていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・電話や連絡帳を活用して情報共有を図っているが、必要に応じて直接話をする機会も作っている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・事業部門が行うイベント（ペアレント・トレーニングなど）の他、療育内で保護者向け講演会なども行っている。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・利用契約時に詳しく説明する他、内容の変更が生じた際にも行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか 。	○		・個別面談を行っている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		・説明し、保護者のサインをもらっている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・必要に応じて適宜面談等を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		イベントとして保護者同士のしゃべり場を設定したり、保護者参加企画が交流の機会となっている。	・きょうだい同士での交流はないが、法外事業できょうだいが参加している。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		・毎月、献立表やクラスだより、ほけんだより等を発行している。	・今後、配信形式での情報提供も検討が必要である。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		・随時、見学等を受け入れている。	・感染症対策を徹底していたため、数年間は地域区民との交流が少なかったが、次年度には行事としてお祭りを検討している。
非	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			・各マニュアルの詳細な内容までは保護者に周知出来ていないが、職員が訓練を重ねることで発生に備えている。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			・現在は対象児がいないが、過去には保護者の協力を得ながら対応したことがあり、今後も必要に応じて同様に行っていく。

非常時等の対応	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		・器具の点検や外出計画の記録など、安全計画に沿った対応を行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	○		・重要事項説明書等で周知している他、実際に避難訓練や救急法講座など参加の機会も作っている。また、職員間では災害時におけるバス連絡方法等も検討している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・毎日行うまとめの中でヒヤリハットの確認をし、対応方法の検討・共有をしている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・委員会を設置し、対応している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		・契約時及び個別支援計画更新のための説明時に、説明をしている。	